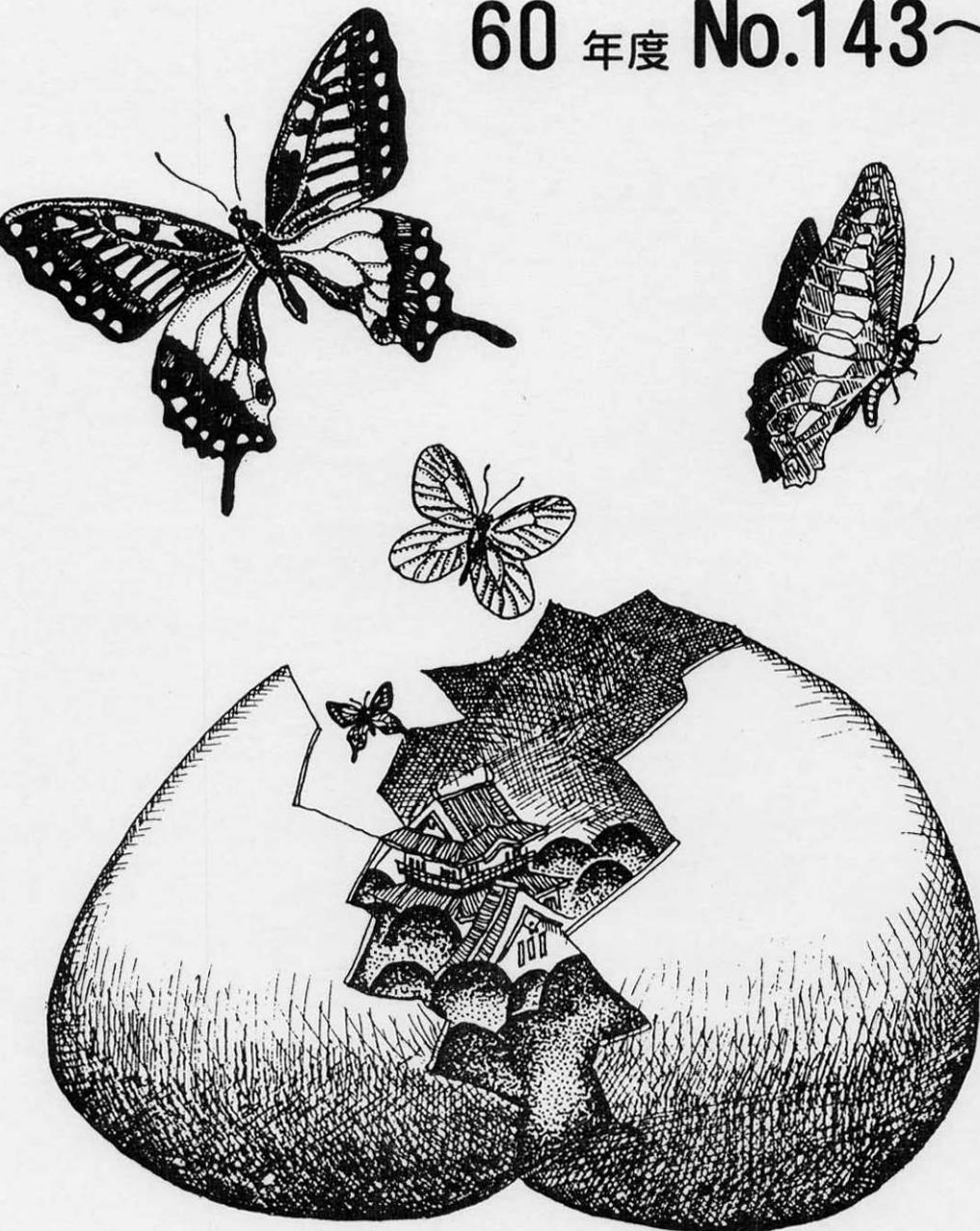


月報 岡崎の教育

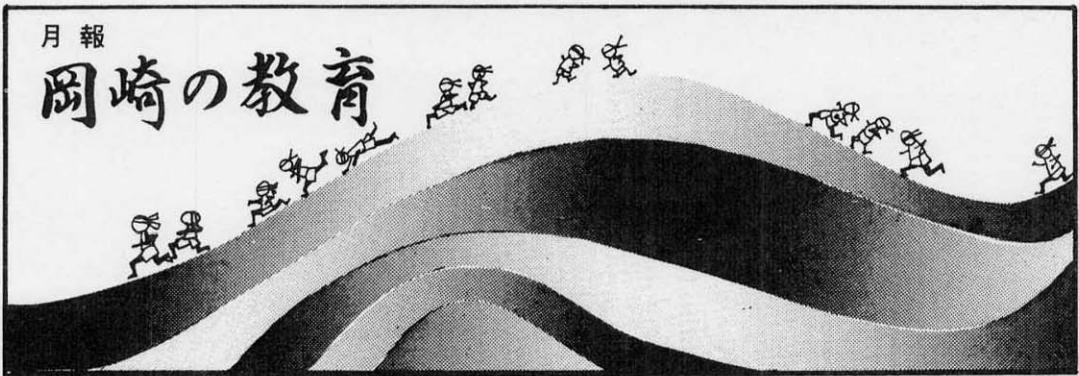
60 年度 No.143～154



岡崎市教育委員会

月報

岡崎の教育



4月号

本の魅力に取りつかれ
われ先に集う図書室は
輝く瞳の子どもたち
求める本をやつと手にし
明るい笑顔がほころびる

開けば楽しい夢の国
時をこえ距離をこえ
作者と読者の対話の中で
喜び・悲しみ・心配が
すなおに顔の表情となる

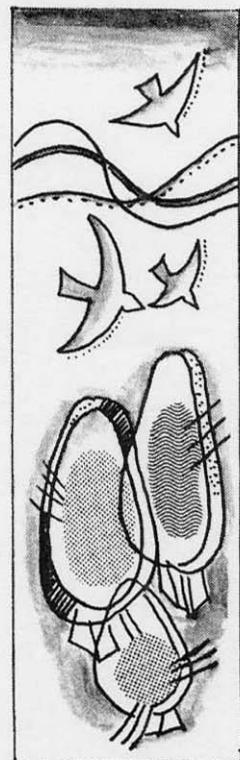
蔵書の数は七千余冊
セルフサービスの図書室は
「自ら学ぶ子」でいっぱいだ

昭和60年4月1日

編集 / 発行
岡崎市教育委員会

(本好きな子供たち—藤川小)

一 教育隨想



鳥辺山谷にけぶりの

樋口芳麻呂

「更級日記」には上総（かずさ）の国から父の菅原孝標（たかすえ）といつしよに上京したばかりの作者が、父から「これを手本にしなさい」と、侍従の大納言藤原行成の娘の筆跡をもったことが記されている。行成は三跡に數えられる書の名手であり、行成の姫君も、「栄花物語」卷十四によれば、父の筆跡を「層若若しくしたようなすばらしい能書であつた。上京当時十三歳（数え年）の少女だった作者に対し、孝標は女性のたしなみの一つである書の上達を願つて、行成に懇望して姫君に手本を書いてもらつたのである。行成としても、まな娘への依頼だから、悪い気はせず、孝標の希望をかなえてやるよう姫君に話したものと思われる。

行成の姫君は、孝標の娘より一歳年長であるにすぎない。孝標は、ほぼ同年輩

である。行成とても、まな娘への依頼だから、悪い気はせず、孝標の希望をかなえてやるよう姫君に話したものと思われる。

「更級日記」によれば、姫君の手本には、

さ夜ふけて寝覚めざりせばほととぎす

野の地名で、当時の火葬場。「鳥辺山」の歌は、「鳥辺山の谷に火葬の煙が燃える」と考へていたのかもしれない。よい教科書を娘に与えることができたと、内心得意だったかもしれない。

行成の姫君は、藤原道長の子長家と十二歳で結婚する。長家も二歳年長にすぎず、まるでままでみたい夫婦であった。仲もよく愛情も深かつたが、ともに幼いので、長家が侍の詰所でうたたねし姫君も手習の筆を持ったまま寝入つて、人々が二人を抱えて寝所に運び入れるなどのほほえましい光景もみられた。

しかし、姫君は「栄花物語」卷十六に記されるように、治安元年（一〇二一）十五歳で病没する。父行成はもちろん、長家の悲嘆もはなはだしかつた。

行成の姫君は、孝標の娘より一歳年長であるにすぎない。孝標は、ほぼ同年輩である。行成としても、まな娘への依頼だから、悪い気はせず、孝標の希望をかなえてやるよう姫君に話したものと思われる。

「更級日記」によれば、姫君の手本には、

野の地名で、当時の火葬場。「鳥辺山」の歌は、「鳥辺山の谷に火葬の煙が燃え立つたら、頬りなく見えた私が亡くなつて火葬に付されているのだと知つてほしい」の意である。

行成の姫君は、「拾遺抄」全巻を書き写しているのであるまい。秀歌もしくは彼女の好きな歌を抄出したのである。ちょうど姫君の死去したころ、乳母を亡くしていた孝標の娘には、「鳥辺山」の歌の通り、夭折してしまった姫君があれ深く感ぜられて、美しい水茎の跡を眺めてとめどなく涙したのである。

しかし、姫君は「栄花物語」卷十六に記されるように、治安元年（一〇二一）十五歳で病没する。父行成はもちろん、長家の悲嘆もはなはだしかつた。

人づてにこそ聞くべかりけれ
鳥辺山谷に煙の燃え立たばはかなく
見えしわれと知らぬむ
の歌が、言いようもなく美しい趣きで上
手に書かれていたとある。

「さ夜ふけて」の歌は「拾遺抄」（藤原公任撰、十巻、五七九首収載）巻二夏に、「天暦御時歌合に」の詞書で掲げられる壬生忠見の作である。また、「鳥辺山」の歌は、「拾遺抄」巻十雜下に、「題

一日の出発を大切に

福岡中学校長

柴田正

年度の初めは、教師も子どもたちもびかびかである。この最初の出会いこそが少なくともその一年の流れの決め手になることは間違いない。教師が燃えれば、子どものやる気が湧いてくるものである。

私もかつて教室で、一番早く登校する学級の子どもと「おはよう」の挨拶を交わすことから一日が始まつたことを覚えている。そして、このことがノートの点検、健康の観察、対話等学級づくりに関りを持つと感じてきた。ひいては、授業にも影響を及ぼし、知らず知らずのうちに教師と子どもとの心の絆を固く結ぶ。子どもたちの樂しそうな目の輝きに心を打たれたものである。

私の学校に、朝七時には運動場で部活動の子どもたちを待つて新卒三年目の教師がいる。夏冬通しての不撓不屈の闘志は、自ずと子どもの心を燃やす。とかく扱い方が難しいと言われる中学



ふるさとシリーズ

—この人に聞く—



らは日本や朝鮮の代表的な燈籠の模刻である。三月堂形あり、法隆寺形あり……。

「燈籠は仏教伝来に伴つて朝鮮から入り、社寺に見られるような獻燈の具として

発達してきました。その後、茶人が現れて庭園の具としても重宝がられるよ

うになつてきましたが、江戸期になると、時代思想や宗教観念からそれが徐

々に崩れて来ています。鎌倉期のもの

を九点の出来とすれば、今は二十点でしようね。だから、私は九十点以上のものを造ろうと思つてゐるんです。」

話を伺ひながら指差された庭を見ると、そこには、細身で、シンプルな造りの新羅

形燈籠があつた。宝珠や歓手の石廣は、手づくりによつて、花崗岩でなくては出

ない柔らかで温かな特質がうまく生かさ

石造美術

池上 勝次氏

「かりに石の生命を千年とすれば、九百九十年ほど風雪に耐えたものが最も美しい。復元した石肌にはそんな感じを出さねばならない。」

—写真集「池上年の世界」より—

石田茂作氏と知己であつた父親の年氏が、昭和初期に「岡崎石造美術研究所」を創設して以来、父子二代にわたつて、伝統的な石造物の模刻をしながら石造美術の心を探求されている。

一步庭に入ると、勝次さんの創作による狛犬一対が出迎えてくれる。飛び石伝いに苔生した小道を進むと、林の至る所に燈籠が調和よく配置されている。それ

は尽きることがない。一つ一つ燈籠の前で懇切丁寧に説明してくださる話しぶりには、石をこよなく愛する人がらが感じられる。

「ここに並んでいる重要文化財級のもの

でも、全く凶面がありませんでしたので、現地へ出向いて調査することから始めたのです。模刻をもっとやりたいと思つていますが、今は創作が中心になつています。」

池上さんは、岡崎の石造物が量産主義に流されている現状を憂い、伝統工芸と

してのレベルアップを図りたいと情熱を燃やしておられる。

「石造美術とは、いわゆる石に美と生命を与えることであり、私の役目もそこにあると考えています。」

石を知り、石を生かす——至高の石造美術を目指し、今日も鑿音を高く響かせる池上さんである。

(生年月日 昭和十三年一月一日
住 所 明大寺町義路二十四)

参校は十分前

男川小学校長

四月、新学年を迎える時期になると、

新しいカバンを肩に、満開の桜の花の下を、胸をふくらませて小学校の門をくぐった入学式を想い出す。教師としても、新しい学級担任が決まり、新たな決意に燃えるのもこの四月である。

朝、出掛けに、「いつてらっしゃい。」の何気ない家族のあいさつの一日は、快調で能率も上がる。あたふたとすべり込みの出勤では、よい教育のできる筈もない。それは、教師の教育への心構えにかかることだからである。

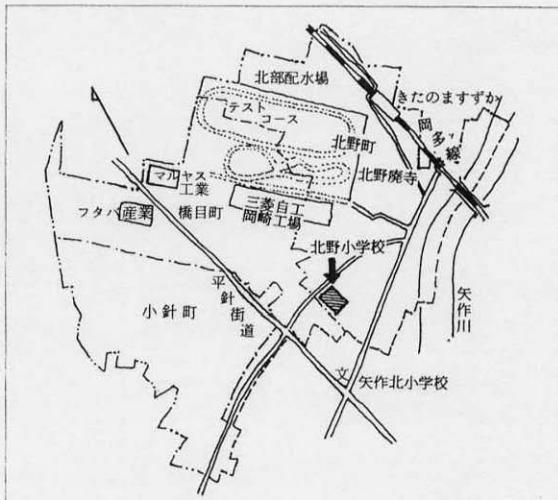
「群聊百寮、早く朝り晏く退ど。公事いとまなし。終日にも尽し難し。是以て、遅く朝れば、急なるに逮ばず。早く退れば、必ず事尽さず。」これは、聖徳太子の十七条憲法の一条である。明治九年の建物で、国の重要文化財指定の、松本市にある開智学校には、「第五条、毎朝参校ハ授業時間十分前タルヘシ」と、教師の出勤心得が残つてゐる。いずれも、今の時代にも通じる教師道であろう。

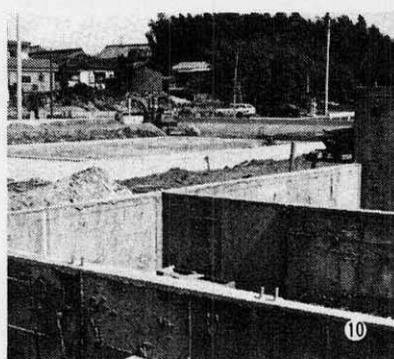
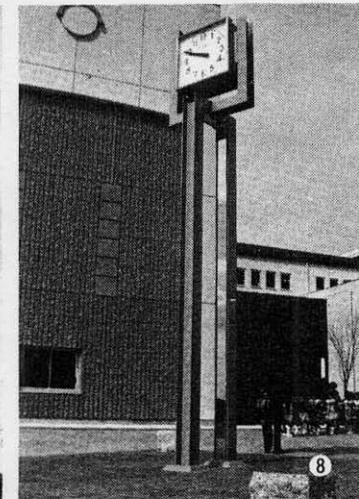
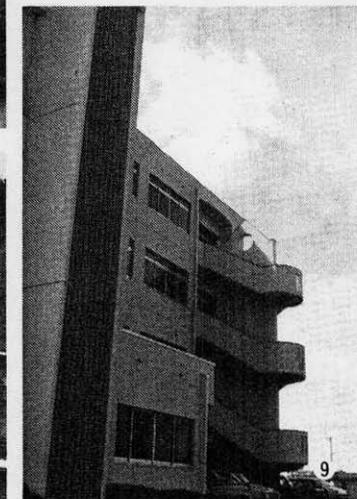
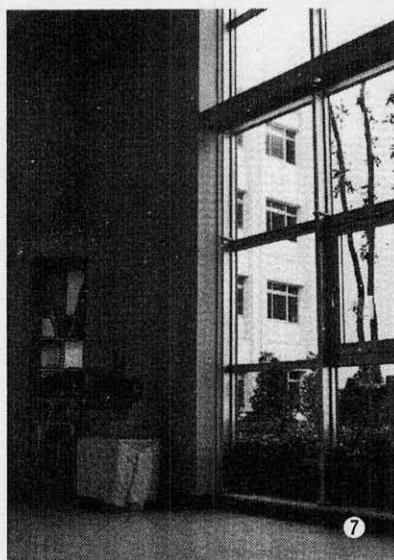
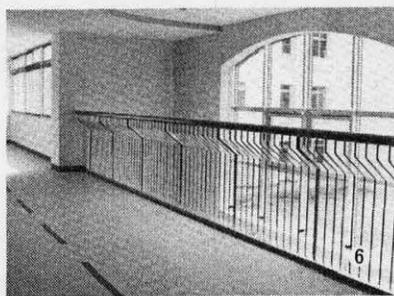
朝の出勤を厳正に、初心を忘れず、この一年を頑張りたいものである。

北野小学校誕生



北野庵寺の南、広々とした水田地を埋め立てて、岡崎市第四十一番目の小学校「北野小学校」が誕生し、風は強いが、よく晴れた四月三日、完工・開校・入学式が盛大に挙行された。兄弟校の矢作北小学校は昭和五十年頃までは児童数約四百人の時代が続いていたが、この十年間で六倍半の千八百人に急増したため、今回、北野小学校が創立の運びとなつた。児童数七百七十九名、十九学級の子供たちが期待に胸はずませて開校式に臨んだ。鉄筋四階建二棟、象牙色の近代的な建物には、広く合理的な昇降口、吹き抜けのロビー、中庭の野外ステージなど新しい工夫がなされてい





- ① 広い水田を埋め立て校地造成
② モダンな児童用の昇降口
③ 新入生の受付風景。真新しい
校舎に父兄の話も一段とはずむ。
④ 児童を代表して、六年松尾直
紀君のよろこびの言葉
⑤ 床に北野廃寺の軒瓦をデザイ
ンした野外ステージ
⑥ 吹き抜けのある二階連絡通路
⑦ 一階はステンドグラスのある
ロビーになつてゐる。
⑧ ユニークな時計塔
⑨ 非常階段にも楽しいデザイン
が工夫されている。
⑩ 校舎完工に引き続き、六月二
十日、完工予定のプール建設工
事がすでに着工されていた。年
度内には体育館も完工するとい
う。

教育日々



「あつたかくなつたもん。今日
はだして走つたよ。」

「学校へ来る時、道が凍つてな
かつたもん、はだしになつた
よ。」

「運動場が、こちんこちんじや
なかつたもん、はだして走つ
たよ。」

「山の厳しい冬、ひとときの
ぬくもりが訪れた日に、自分か
らはだしになつた子どもたち。」

「手をビュンビュンふつて走る
と、あつたかくなるよ。」

「初めの三周をすぎると、あつ
たかくなるもん、いいよ。」

「足がすずしくて、とても氣も
ちいよい。」

「とつても軽く走れるような気
の自信顔。」

「南に男川の清流。北にどつか
と三河富士。」

「山紫水明に恵まれた山間の学
校に、はだか・はだしで朝のグ
ランドを走る子どもたち。」

「一年生からはだかになつたも
ん、へい氣だよ。」

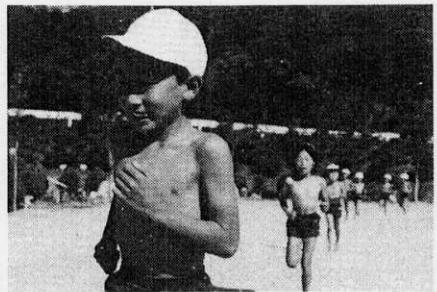
「と、元気いっぱい始まつたはだ
かマラソンだつた。」

「夏は、気もちよかつたけど、
この頃、だんだん痛くなつて
きたよ。」

「皮がむけそうで、がまんして
走つとるよ。」

「はだしが痛いこと、初めてわ
かつたよ。」

「耐えて耐えて、初冬をのり
切つた子どもたち。」



「足のうらが、くすぐつたくて
氣もちいいよ。」

「山の子は強い。」

「うらが、くもの巣どうするの。」

「こと。今は、この地域の家庭
にも、平均二・五台の『車社会』
となつた。油断すれば、どこへ

行くにも車の『文明病』のとり
こになつてしまふ今日である。」

「自然の中で、体を存分に動か
し、汗をかくことの爽快さを味
わえる、素晴らしい環境の学校
である。」

「太陽を浴び、風に吹かれ、大
地を蹴つて走る、たくましい子
どもたちに育て。私も負けられ
ない。」

くもの巣が開くまで

山中小 滋野井貴子

学芸会が近づくたびに何冊も
の脚本集とにらめっこをする。

こんな事ならと自己流で脚本を
書き始めて、今年で三作目とな
った。これは、けつこう楽しい

仕事なのだが、そこは素人の悲
しさで必ず頭の中で考えたよう

に事が運ぶとは限らないのだ。
今年の劇は、「千代とかっぱ

ちゃん」。一番苦労したのは、
「足のうらが、くすぐつたくて
氣もちいいよ。」

「先生、くもの巣はどうするの。」

「うらが、くもの巣どうするの。」

「こと。今は、この地域の家庭
にも、平均二・五台の『車社会』
となつた。油断すれば、どこへ

行くにも車の『文明病』のとり
こになつてしまふ今日である。」

「自然の中で、体を存分に動か
し、汗をかくことの爽快さを味
わえる、素晴らしい環境の学校
である。」

「太陽を浴び、風に吹かれ、大
地を蹴つて走る、たくましい子
どもたちに育て。私も負けられ
ない。」

「形が悪い、左だけ長いもん。
「すべらんで下へ広がらん。」

「やつた、きれいじやん。」

「軽いで下へ落ちん所もある。」

「おもり、付けるかあ。」

「ともあれ、これで何とかなるな
とみんなが思つた。本番二日前

か。しかし、機転をきかした真
ん中の子がぱつぱつとゆする

廣がる。あ、下がひつかかつた
じのナットをおもりにつけた。

ついに、本番。問題の場面。
たいこの音でくもの登場。巣が

広がる。お、下がひつかかつた
じのナットをおもりにつけた。

「開いた、開いた。大成功。」

みんな、舞台のそで声を出さ
ずに叫び、音を立てずに拍手を

した。今年もまた、どじな脚本

家は、子どもたちのパワーに敬
服しその協力ぶりに深く感謝し

たのだった。



岡崎の教師は、今日の教育の実状を正しく認識し、校長を先頭に全校一致の指導体制をとる。児童・生徒と深くふれあい人間的魅力を吐露する教師である。

一、児童・生徒にとって、よくわかる授業の展開に努める。二、基本的生活習慣を身につけて育てる。三、強制的な体力と忍耐力のある児童・生徒を育てる。

昭和五十九年度の愛知県芸術文化選奨文化奨励賞を美合小学校ホタルクラブが受賞し、去る

3月9日、県庁で表彰された。美合小ホタルクラブは、八年ぶりに再び受賞した。前からホタルの保護、人工増殖に取り組んでいた。

井上義仁・村山義仁・高橋智子・大森洋子・前田みどり・矢北小・宮本喜代美・柴田智佳子・矢西小・佐宗良子・岩田充実・矢南小・太田幹雄・山田彰・野田豊・柴田美香・六北小・多谷康伸・酒井秀明・清水由美子・六南小・香村稻子・森下初子・城南小・佐々木雅彦・細井規子・上地小・大沢峰・小豆坂小・高橋智子・北野小・馬場久明・平岩喜久・甲山中・濱口良・山田一乃・出来美和子・谷口敏子・美川中・佐野康晴・溝口了実・南中・神尾美孝・伊藤正人・清水祐美・紀子・城北中・水田行実・竹田奈保子・福岡中・丹羽郁人・高鍬利行・石川敏幸・伊與田敦子・東海中・鈴木俊二・吉田範夫・村松裕敏・守田雅一・常中・野田香緒里・岩津中・三浦司・麻場公徳・矢作中・黒野峰行・田村里美・鈴木順子・天野圭子・金子浩・大塚浩子・新香山中・板倉正敬・山田義仁・倉地耕治・山田千恵子



寄贈刊行物・資料等

葵 中

- ◆葵中の教育
—自律と感動—その4
B5 八七ページ

- ◆つとめてやむな
矢南小
変形B5 一二三ページ

- ◆明日を拓く生活指導
A6 五六ページ 生活指導部

- ◆安全指導事例集
A4 一一八ページ 特活動

- ◆太陽と土に親しみ自ら励む子
の育成
A4 一一八ページ 井田小

- ◆南中の風
中根清巳
変形A6 五七ページ

- ◆学校環境緑化「日本一」に
竜美丘小学校

- ◆期待の新任教員 一二〇名
「小学校」七七名

- ◆自作ビデオ教材活用事例集
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆社会科部
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆学校環境緑化「日本一」に
竜美丘小学校

- ◆期待の新任教員 一二〇名
「小学校」七七名

- ◆自作ビデオ教材活用事例集
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆社会科部
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆期待の新任教員 一二〇名
「小学校」七七名

- ◆自作ビデオ教材活用事例集
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆社会科部
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆期待の新任教員 一二〇名
「小学校」七七名

- ◆自作ビデオ教材活用事例集
B5 孔版印刷 ライブドリ

- ◆期待の新任教員 一二〇名
「小学校」七七名

- ◆自作ビデオ教材活用事例集
B5 孔版印刷 ライブドリ

昭和六十年度 学校教育の視点

教育の真の在り方を求めて、その改革が真剣に論議されている。

しかし、制度はどうであろうと教育は「教師その人」にあることに変わりはない。教師の力量や言動は、直接、児童・生徒に反映し人格形成に大きな影響を与える。

特に今日、強く求められていける教師は、教育愛に溢れ、使命感に燃え、常に自己研磨に努める教師であり、一人ひとりの児童・生徒と深くふれあい人間的魅力を吐露する教師である。

岡崎の教師は、今日の教育の実状を正しく認識し、校長を先頭に全校一致の指導体制をとる。児童・生徒と深くふれあい人間的魅力を吐露する教師である。

昭和五十九年度の愛知県芸術文化選奨文化奨励賞を美合小学校ホタルクラブが受賞し、去る

3月9日、県庁で表彰された。美合小ホタルクラブは、八年ぶりに再び受賞した。前からホタルの保護、人工増殖に取り組んでいた。

三月九日、県庁で表彰された。

小・大森佳輝・山本典弘・上拾石・篠海・三浦敬子・矢東小・沢田洋子・前田みどり・矢北小・宮本喜代美・柴田智佳子・矢西小・佐宗良子・岩田充実・矢南小・太田幹雄・山田彰・野田豊・柴田美香・六北小・多谷康伸・酒井秀明・清水由美子・六南小・香村稻子・森下初子・城南小・佐々木雅彦・細井規子・上地小・大沢峰・小豆坂小・高橋智子・北野小・馬場久明・平岩喜久・甲山中・濱口良・山田一乃・出来美和子・谷口敏子・美川中・佐野康晴・溝口了実・南中・神尾美孝・伊藤正人・清水祐美・紀子・城北中・水田行実・竹田奈保子・福岡中・丹羽郁人・高鍬利行・石川敏幸・伊與田敦子・東海中・鈴木俊二・吉田範夫・村松裕敏・守田雅一・常中・野田香緒里・岩津中・三浦司・麻場公徳・矢作中・黒野峰行・田村里美・鈴木順子・天野圭子・金子浩・大塚浩子・新香山中・板倉正敬・山田義仁・倉地耕治・山田千恵子

福田小学校之碑



岡崎市安戸町

青木川の上流、大沼街道を見返橋から右にそれて約一キロメートル、安戸町の東のはずれの左手路傍に、「福田小学校之跡」と刻んだ小さな石碑がある。

福田（ぶくだと呼んだ）尋常小学校は常磐東小学校の前身で明治二十五年にこの地に設立された学校である。発足当時の就学率は三五・五パーセント、三十六坪の教室に一～四年生までが一人の先生に教わっていた。学区は小丸・新居・安戸・藏次その他、井ヶ谷（現在額田町中伊）も入っていたという。周囲を見まわしても一軒の家も見当たらない雑木林の中、こ

青木川の上流、大沼街道を見返橋から右にそれて約一キロメートル、安戸町の東のはずれの左手路傍に、「福田小学校之跡」と刻んだ小さな石碑がある。

福田（ぶくだと呼んだ）尋常小学校は常磐東小学校の前身で明治二十五年にこの地に設立された学校である。発足当時の就学率は三五・五パーセント、三十六坪の教室に一～四年生までが一人の先生に教わっていた。学区は小丸・新居・安戸・藏次その他、井ヶ谷（現在額田町中伊）も入っていたとい

う。

も見当たらない雑木林の中、こ

んな所に学校があつたのかと首を傾ける方もあるが、この前を通る道は旧大沼街道で、奥の小丸町にある名刹「長光寺」では明治二年まで住職によつて寺子屋が開かれていた土地柄である。

福田学校は明治三十三年閉校し、米河内の米山学校、大柳学校と三校が合併した形で安戸町に常磐村立鼎尋常小学校として再出発する。そして明治三十九年、町村合併による校名変更により常磐東尋常小学校となつたのである。この碑は昭和五十五年常磐東小P.T.Aの方々が建てられたものである。（常磐東のむかし）〔統常磐東のむかし〕参考

この本を

*贈る言葉

小原 國芳

¥ 1000

*糸の別れ

林 郁

¥ 1300

*明治のジャポンスキー

ヨセフ・ジョンソン

サイマル出版会

¥ 1500

*元禄御墨奉行の日記

神沢 次郎

¥ 480

*打たれ強く生きる

城山 三郎

¥ 1000

新入社員の心がけから経営者のあり方まで、人それぞれの生き方を語る。

人生の真の強者とは？

肉親を愛し、よき友人を持ち、よき趣味を持ち、文学や芸術を通して自分だけの世界を豊かにしておくことこそ、打たれ強さが出てくるのではないかという。

気軽に読め、しかも、学びとることの多いエッセイである。

（日経流通新聞「人生のステップ」掲載）

シ
オ
ス
ア

「水仙が雨に打たれ、桜が風に散る」—その花が見事であるだけに、よりあわれさを誇る。詩人高田敏子は言う、「咲き誇る花の美しさは、ただ見とれるだけ。詩になるとしたら、その立派さの中でも完全でない部分を見つけたときではないか」と。

題
カ
ツ
タ
イ
ト
ル
バ
ッ
ク

岡崎市長
甲山 中
権 長 坂 正 鎮 夫
口 文 子 延

「おたま」「おたま」と一年生の元気な声、長い尾を振りながら泳ぐおたまじやくしは、子供たちに春を教える。
昔、漫画家田河水泡は、好んでおたまじやくしをサインした。漫画家として成長するに従い、足や手を出した。
一年生が、足や手を出して元気に成長するのが楽しみだ。

足でかせいだ九年八ヶ月、長い間愛読していただいた「点」も三月号で完結。四月号からは岡崎の教育の歩みを写真と小文で綴るミニ教育史「泉」として再登場する。教育に関する「点」を探し出し、當時の教育の流れを汲みとろうといふ企画、泉源は小さくて波紋は池面全体に広がる。乞御期待。

精神で学級・学校経営したいものである。

新年度もスタートし、期待と不安の新入生も慣れ、どの学校も軌道に乗ってきた。子供たちが良くも悪くもなるのは担任次第と言われる。よく「子供に言うほどことは、教師自ら率先すべきである」と言われる。新年度に当たり、今一度、「子供に捧ぐ」百花繚乱の季節、詩心も揺れる。